

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

《医療系》

●広島大学医歯薬学総合研究科創生医科学専攻 「バイオデンティスト育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

医歯薬学総合研究科で既に開講されていた講義形式の共通科目「生命・医療倫理特論」、「感染症の発現機構とその制御」、「バイオデンティストリーの創生展開」および「研究特論」を補完するコースワークを実施した。プログラム期間内に改善を重ね、共通する基礎的な生命科学の実験理論・技術を修得するスタートアップコースワークと発展的な内容を扱うアドバンスドコースワークを行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

大学院生が医・歯・薬にまたがった指導を受けることができるよう、医歯薬学総合研究科の多数の教員で項目ごとに演習を分担した。また、診療業務との調整がつくように、実施曜日をできるだけ固定するとともに、同一内容の複数のコースを設定し、各予定終了時刻を提示するなどの工夫をした。留学生にも対応するため、使用言語によって、英語コース、日本語コースをそれぞれ設定した。また実習内容をもとに大学内で使用する英語、日本語のテキストを作製した。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

同じコースワークに参加した異なる専攻の大学院生間で、研究手技や内容に関しての意見交換が行える環境ができた。また、英語コースでは英語を使うということに対して事前に参加学生の覚悟を促し、従来の日本語と英語両方で同じ内容を説明するための時間のロスが減り、より充実した内容となった。また、臨床系の大学院生および海外留学生が基本的な理論・手技を学ぶ第一段階の科目として医歯薬学総合研究科の正規の開講科目「スタートアップ生命科学コースワーク」および「アドバンスド生命科学コースワーク」として定着した。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

F. その他

②国際シンポジウム等の開催

《医療系》

●広島大学医歯薬学総合研究科創生医科学専攻 「バイオデンティスト育成プログラム」の事例

(具体的に何を実施したのか)

毎年度計3回にわたり国際ワークショップを開催し、研究および教育分野の意見交換の場を設けた。平成20年度162名、平成21年度244名、平成22年度284名の参加があった。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

使用言語は英語とした。ワークショップの内容は、大学院生による発表を毎年企画し、初年度は海外の最先端研究および教育、次年度は国内外の若手研究者の研究、最終年度はプログラム「英語プレゼンテーション演習」や「英語修辞学」を経験した大学院生の研究発表を中心に構成した。さらに司会やアナウンス・座長など運営・進行に大学院生が積極的にかかわるようにした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

「英語プレゼンテーション演習」を踏まえた大学院生の英語での研究発表の場として有用であった。